

下田まち遺産担当・小川レポート

# 神子元島灯台に行ってきました。

神子元島灯台を詳しく知るために、下田海上保安部の定期点検の機会に合わせ、下田まち遺産担当・小川が同行させていただきました。下田海上保安部・星野交通課長に神子元島灯台についてご説明いただきながら、案内していただきました。



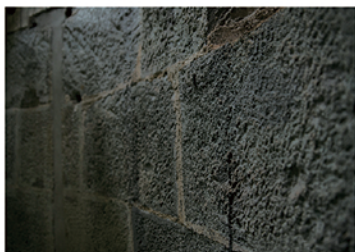
1. 神子元島に到着。周辺にはスキューバダイビングを楽しむダイバーをのせた船が停泊。2. 神子元島に上陸し、灯台を目指し歩道を進む。3. 灯台のある丘には石積みされた壁が続く。



灯台入口上部に掲げられた灯台初点灯日が刻まれた記念額。



【写真①】灯台内部の構造。写真②は伊豆石の独特の質感が美しい。



## 灯台の内壁は今でも伊豆石がむき出し。

建設当時、灯台の内壁には木板が貼ってありました。また、上部へ向かう螺旋階段も木造であったこともあり、灯台内は木で覆われていたことになります。現在、木板は剥がされ、伊豆石の壁面がむき出しになり、階段は鉄骨階段に取り替えられています。



4. 灯台ライトルームの様子。5. レンズ内の照明装置。メタルハライドランプという特殊電球。

## 灯台の頂上には美しいレンズがありました。

伊豆石に囲まれた階段室を上ると、ガラス張りの部屋に出ます。こちらが照明装置が置かれたライトルームです。リング状のガラスを放射線状に配置したレンズが部屋中央に置かれ、このレンズが360°回転しながら全方位に光を放ちます。ガラスの断面は三角形でプリズムの効果を利用して光を集め、灯台の光が遠くまで届く構造になっています。



## 三角窓には意味がありました。

昔は灯台のレンズがゆっくり回転していたので、窓枠で光に影ができないように、斜めの窓枠(三角窓)を採用していました。

## 元宿舎の壁面に注目！

灯台守※が宿舎としていた伊豆石造の建物は、現在、蓄電設備を納めています。この建物は以前はモルタルで覆われていましたが、平成14年に建設当時の外観に戻そうと、モルタルを剥がし、窓部の穴は伊豆石風の仕上げで埋められました。近くで見ても、それほど違和感を感じない仕上げとなっています。文化財として意識された工事にこの元宿舎の重要度が伺い知れます。

※灯台の管理人のこと。



元宿舎外観。



【写真③】コンクリートで埋められた跡跡(写真④)右側埋められたモルタル仕上げ。



伊豆石

モルタル